第54回 ブダペストで考えたこと

作家・ドイツ在住 川口マーン惠美

EUの東壁を守っているのは

ハンガリーの首都ブダペストに行ってきた。最高だった。行きたかった理由の一つがオルバン前首相。以前、「私、オルバン首相のファンです」と言ったら、ブダペスト駐在の商社員は一瞬言葉に詰まった後、「変わった方ですね」と笑った。オルバン首相は、西側の常識ではそれほど「悪者」になっていた。



オルバン・ヴィクトル前ハンガリー首相 (Wikipedia)

欧州委員会(EUの内閣に相当)が氏を独裁者扱いするのは、氏の確固とした国家観による。たとえEUの連帯のためとはいえ、ハンガリーの主権を明け渡したり、国家のアイデンティティーを放棄したりするわけにはいかないという強い意志だ。

例えば2015年9月、当時のメルケル首相が中東難民にドイツ国境を開くという“勇断”をし、ドイツ国民が自分たちの“人道”ぶりに沸いていた頃、オルバン氏はセルビアとの国境にせっせと壁を造っていた。ただ、そのおかげで地中海経由でイタリアに入る中東難民の数が爆発的に増えたため、EUはそれらの難民を加盟国が手分けして引き取ると決めたが、オルバン氏は、「イスラムという異なった文化の急激、かつ無制限な流入は甘受できない」として引き取りを拒絶。EUの欧州委員会はそれを「反民主主義だ、反人道だ」といって非難し、膨大な罰金を課した。ハンガリーがそんな巨額を支払えるはずもなく、結局、ハンガリーはEUから受け取れるはずのお金を凍結されたまま何年もきた。その間に大量の難民を迎え入れた西側諸国では、テロや犯罪の増加、治安の乱れ、難民にかかる費用の膨張などといったさまざまな問題が起こり、現在に至っている。



どちらが真の民主主義者か

オルバン氏がEUと衝突した事案は他にも多々あったが、直近ではウクライナへの援助金だ。EUはこれまで1345億ユーロ(約24兆円)を援助したが、さらに900億ユーロ(約16兆円)の無利子の追加支援を約束。しかし、オルバン氏は、「ロシアと交渉して戦争を終結させることが先決」としてこれをブロックし、フォン・デア・ライエン欧州委員長を激怒させた(欧州理事会の決定は全会一致が基本)。

そのオルバン氏が4月の総選挙で大敗。氏は、開票が始まってわずか3時間であっさり敗北宣言をし、マジャル・ペーテル氏(45歳)の勝利を祝福した。オルバン氏が負ければ、「不正選